

大学院政策科学専攻開設に寄せて

著者	須藤 春夫
雑誌名	社会志林
巻	47
号	3
ページ	1-2
発行年	2001-03
URL	http://hdl.handle.net/10114/00015143

大学院政策科学専攻開設に寄せて

社会学部長 須 藤 春 夫

2001 年 4 月、本学の大学院社会科学研究科に政策科学専攻が開設されます。この新専攻は社会学部の社会政策科学科を基礎とするもので、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。

本学には私学で最初に開設された社会学部を基礎とした、大学院社会学専攻が 1964 年に設置されており、多くの人材を輩出してきました。その実績をふまえて、本専攻では政策科学の領域における高度職業人および研究者の養成を目的とした昼夜開講制の大学院教育を行うものです。

この度の新専攻設置は大学院・学部における数学改革の大きな柱として取り組みました。これまで、社会学専攻は基礎学部である社会学部の社会学科と社会政策科学科（1994 年に応用経済学科を名称変更）の両方に対応する諸科目を一つの大学院専攻課程に包摂する形で開講し、教育・研究の実績を積み重ねてきました。しかし、このことが社会学専攻の性格を分かりにくいものにし、カリキュラムの体系的性に弱点を持っていたことも否めません。社会学部にある二つの学科に対応する形で、あらたに政策科学専攻を設置し、両専攻の個性を明確にして焦点を絞った体系的な教育・研究を実現することで、それぞれの領域で適合的な問題関心をもった志願者をより広く集めることを目指しています。このような大学院改革は、社会学部の数学改革にもおおきな前進をもたらすに違いありません。

政策科学専攻の大きな特徴は、社会人を対象とした高度職業人の養成教育にあります。

今日の社会的問題状況は、かつてない複雑性、複合性をもち、しかも危機的な様相を呈しているだけに、その解決に直面する現場では科学的な政策形成の力が強く求められていますし、他方で社会諸科学も政策科学としての有効性を問われる時代になっているといえるでしょう。政策には科学的原理があってはじめて有効性が生まれるといえます。そこで、高度職業人養成コースでは、地域・コミュニティ政策、組織政策、環境政策の 3 つのコースで専門のカリキュラムを有するプログラムを

設定し、学際性、事例分析・社会調査の重視、社会との交流、教育と研究の融合などの教育理念のもとに教育・研究を行おうとするものです。社会人を対象とした高度職業人教育は、研究者養成コースで学ぶ者にとっても、現実感覚を身につける大きなきっかけになると思われます。

すでに本学においては、政策関係のプログラムとして、経済学専攻（夜間）に「都市政策プログラム」、政治学専攻（夜間）に「政策研究プログラム」が開設されており、これら他専攻の政策関連プログラムとの開講科目が補完的になるようなコースを目指すことになっています。

現実的かつ実践的な教育・研究を目指すユニークな政策科学専攻が着実に成長し、21世紀の明るい未来を創造する多くの人材を送り出すことを願ってやみません。これまで設置に向けて尽力されてきた関係各位のご努力に感謝します。